

熊本機能病院が担う 役割について

令和5年11月2日

社会医療法人 寿量会



▶ 憲章 私たちはQOLの向上とノーマライゼーションの確立への道を歩みます

寿量グループは『social inclusion(社会的包摂)』の構築に貢献します

▶ 熊本機能病院の理念

私たちは人間の尊厳を守り健康生活への奉仕をいたします

▶ 基本方針

患者さんのために For Patients

- **一貫した医療**
24時間体制、救急医療から疾病治療とリハビリテーション医療を通して生活自立支援までの一貫した医療を実践します
- **パートナーシップ**
私たちは患者さんとのパートナーシップを最も重視します
- **高度治療**
疾病の高度治療の充実をはかります
- **医療安全**
安全はすべてに優先すると考えて医療を行います
- **個人情報保護**
職員は職務上知り得た個人情報を守ります
- **エビデンス**
エビデンス(科学的根拠)に基づいた医療を実践します
- **チーム医療の実践**
高い専門性を持った多職種スタッフが目的と情報を共有し、連携・補完し合い的確な医療を提供します

地域のために For Community

- **地域連携**
保健・医療・介護・福祉・地域生活の連携をはかります
- **社会還元・SDGsの実践**
健全経営を維持し、その成果を社会に還元してSDGsを推進します
- **「医療の谷間」解消**
地域における「医療の谷間」の解消への努力をします

職員さんのために For Staff

- **教育・福利厚生**
教育・福利厚生を積極的に行います
- **働きがいのある職場**
一人ひとりの自己実現・自己成長を支援し、働きがいのある職場風土を育みます
- **健康維持活動**
職員の健康を守るために活動します

1 自施設の現状 基礎情報

▶ 許可病床数 395床

一般病棟	138床	回復期リハビリテーション病棟	131床
地域包括ケア病棟	55床	障害者施設等一般病棟	71床

▶ 主な指定・認定事業

救急告示病院、急性心筋梗塞急性期拠点病院、開放型病床、熊本地域リハビリテーション広域支援センター、熊本市北3地域包括支援センター（熊本市高齢者支援センターささえりあ清水・高平）、熊本医科歯科病診連携事業、へき地医療、筋電電動義手の装着訓練等の実施医療機関、日本救急医学会救急専門医指定施設

▶ 主な診療科

整形外科、形成外科、小児形成外科、脳神経内科、脳神経外科、リハビリテーション科、循環器内科、血管外科、麻酔科、放射線科、リウマチ科、内科、救急科、外科、皮膚科、消化器外科、耳鼻咽喉科、小児科、総合診療科

▶ 特殊センター

救急センター、切断指肢再接着センター、農業外傷センター、四肢外傷センター、循環器センター、総合血管センター、国際唇裂口蓋裂センター、アノマリーセンター、神経生理センター、地域医療連携 画像診断センター、神経難病センター、スポーツ外傷センター、人工関節センター、骨粗鬆症センター、訪問歯科連携センター

▶ 職員数 (2023年7月1日現在)

741名 (正職員 677名+パート職員 64名)

医師 53名、看護師 304名、准看護師 1名、保健師、1名、救命救急士 1名、看護助手(ケアキャスト) 30名、介護福祉士14名、薬剤師 13名、臨床検査技師 22名、診療放射線技師 15名、臨床工学技士 3名、理学療法士 82名、作業療法士 64名、言語聴覚士 21名、公認心理士 1名、リハビリ助手 2名、歯科衛生士 4名、管理栄養士 8名、社会福祉士 13名、研究員 2名、医師事務作業補助者 16名、事務 71名

1 自施設の現状 診療実績

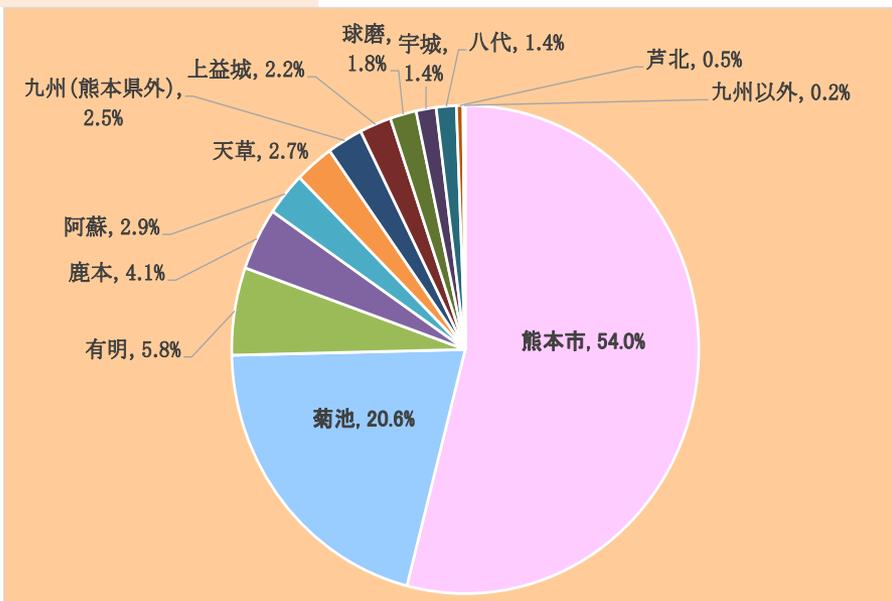
▶ 診療実績

		令和2年度	令和3年度	令和4年度
新入院患者数		3,923名	4,052名	3,941名
入院経路割合	外来	63%	64%	67%
	救急外来	22%	21%	21%
	転院(施設等含む)	15%	15%	11%
1日平均外来患者数		359名	388名	400名
救急入院数(土日祝含む)		846名	837名	870名
救急車受入台数		1,005件	973件	1,203件
手術件数		2,766件	2,887件	2,898件
人工膝関節置換術		284件	286件	295件
人工股関節置換術		199件	256件	269件
口唇口蓋裂形成術		109件	119件	98件

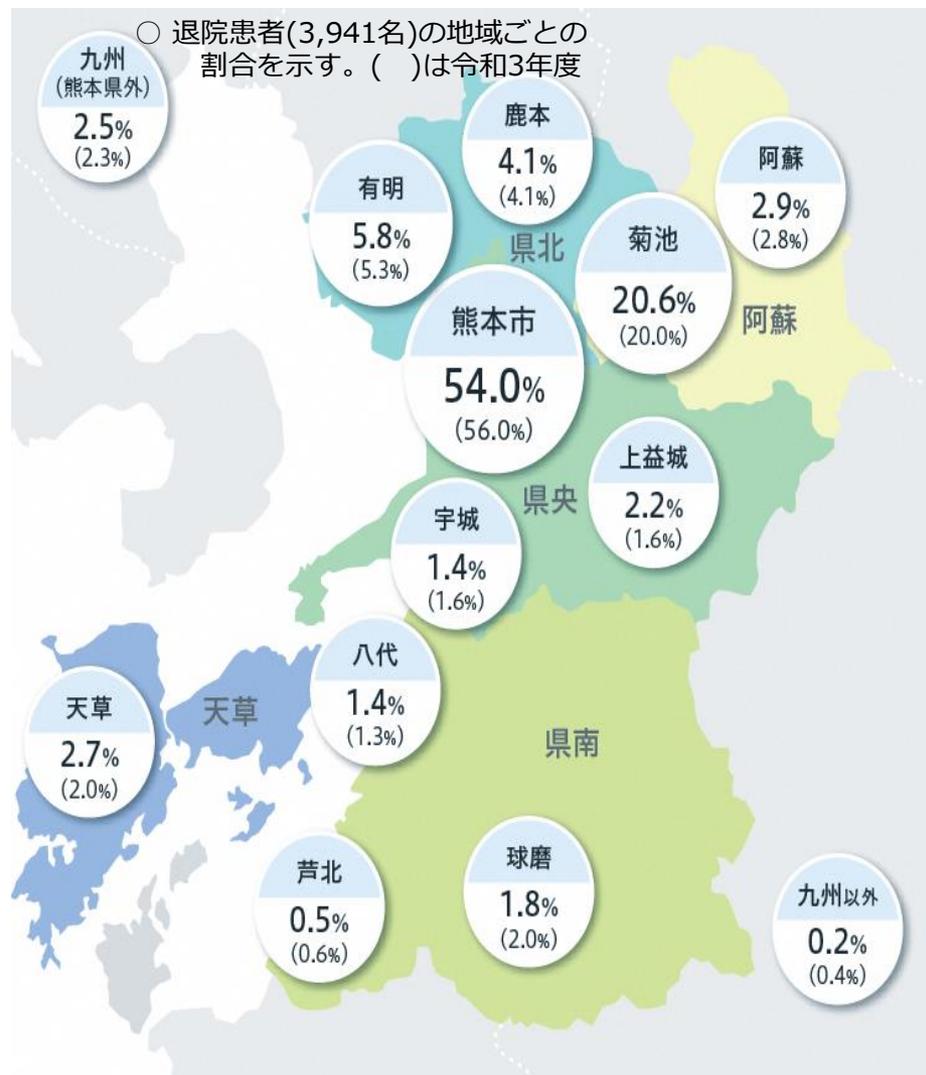
1 自施設の現状

診療実績(令和4年度)

地域別 患者割合



退院患者診療圏



入院患者 年齢層分析



1 自施設の現状 自施設の特徴

専門性の高い地域密着病院として

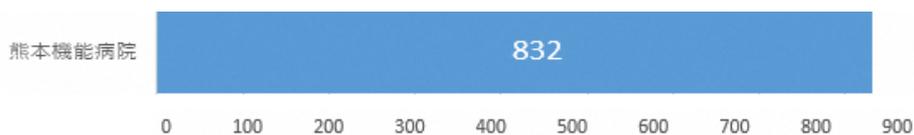
専門性の高い医療を提供しながら「ケアミックス病院（急性期・回復期）」として地域医療に貢献する。

マイクロサージャリー

昭和56年の開院以来、農業外傷等に対し積極的に取り組み、院長を中心に5名の整形外科上肢班医師で診療にあたっている。院内には専用のトレーニング環境を整え、いつでも利用することができるほか、西日本では唯一30年にわたり、マイクロサージャリーワークショップを開催し、若手の育成に努めています。

手外科手術 2020年実績 総件数 832件 (熊本県2位)

読売新聞 全国版
病院の実力 (2023.2.27掲載データ)掲載病院219機関内



人工関節置換術(膝・股)

マイクロサージャリー同様、開院以来の歴史を持つ。現在は整形外科下肢班医師を中心に「人工関節センター」として年間500件超の実績がある。令和2年1月には熊本初九州2例目となるロボティックアーム「Mako」を導入。ナビゲーションシステムと合わせることで治療計画通りの安全かつ正確な手術を可能とし、年間300件の手術で使用している。

人工股関節置換術 手術件数
九州・沖縄 3位 (熊本県1位)
人工膝関節置換術 手術件数
九州・沖縄 3位 (熊本県1位)

読売新聞 全国版
病院の実力 (2021.2.27掲載データ)掲載病院385機関内



1 自施設の現状 自施設の特徴

先天性疾患（小児形成外科）

「口唇裂口蓋裂」、「多合指(趾)症」等の先天性疾患に対し、地域の産婦人科、小児科、皮膚科、整形外科等との診療連携を密に、早期からの適切な治療を行う。特に「口唇裂口蓋裂」には形成外科・言語聴覚療法課・口腔リハ課でのチーム診療を行い、令和3年度時点で1,500件の治療にあたる。

「口唇裂口蓋裂先天性疾患」の治療実績数(令和3年度)

全国5位

順位	--全国--	病院名	治療実績		
			合計件数	手術あり	手術なし
1	神奈川県	昭和大学藤が丘病院	313	313	-
2	千葉県	千葉県こども病院	121	121	-
3	埼玉県	埼玉県立小児医療センター	119	119	-
4	東京都	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター	115	115	-
5	熊本県	熊本機能病院	106	106	-
6	静岡県	静岡県立こども病院	104	104	-
7	神奈川県	神奈川県立こども医療センター	102	102	-
8	宮城県	東北大学病院	91	91	-
9	北海道	北海道大学病院	88	88	-
10	広島県	地方独立行政法人 広島市立病院機構 広島市立広島市民病院	87	87	-

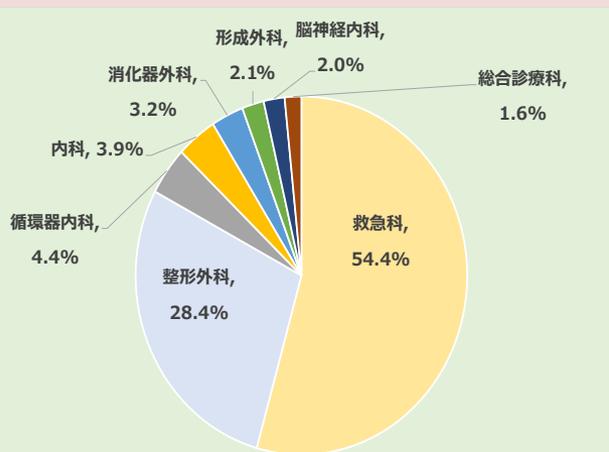
※DPC対象病院・準備病院・出来高算定病院の統計

1 自施設の現状 自施設の特徴

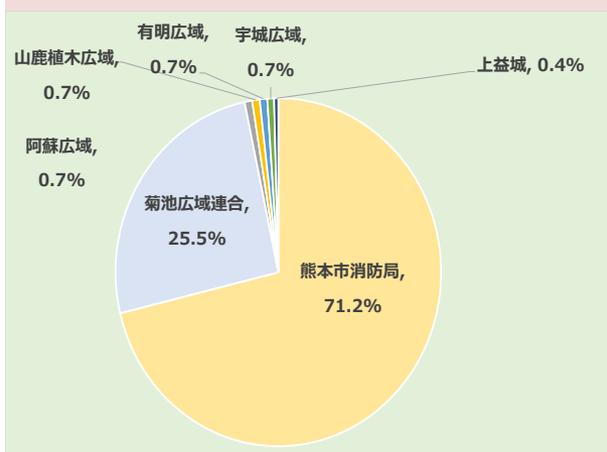
救急科

救急センターを中心として24時間体制で診療を行う。救急専門医と各診療科の医師が連携し、専門性の高い1～2次救急医療の提供を目指している。

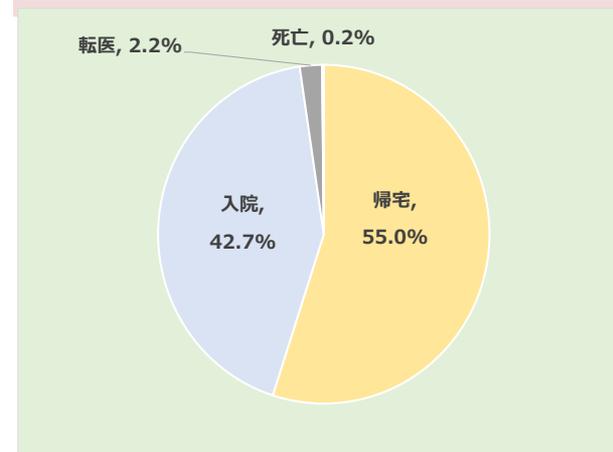
救急車 診療科別割合



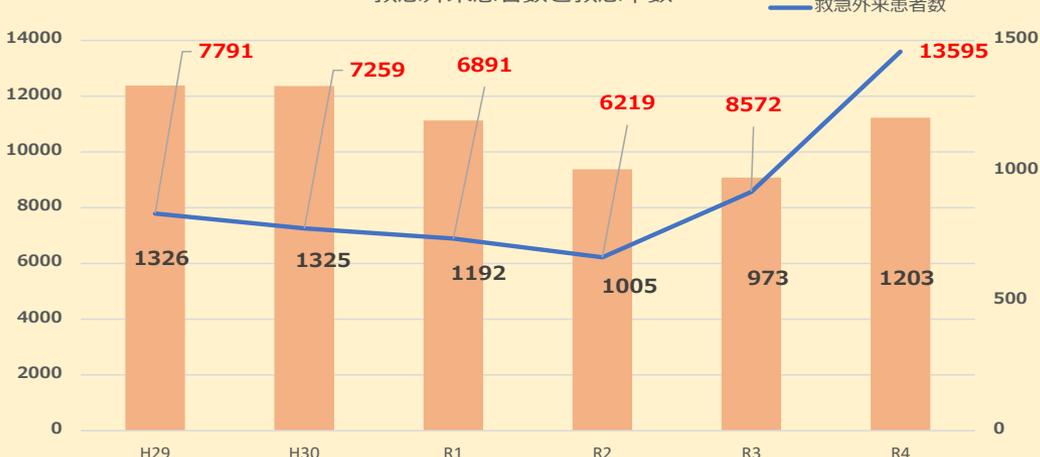
救急車 消防署別割合



救急車 転帰別割合



救急外来患者数と救急車数



2022(R4)年度実績

1月平均 入院患者数 72人

1日平均 救急外来受診者数 37人

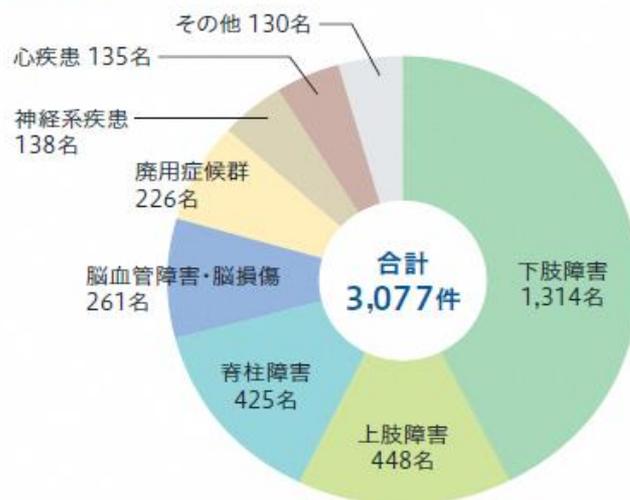
ドクターヘリ受入 1件

1 自施設の現状 自施設の特徴

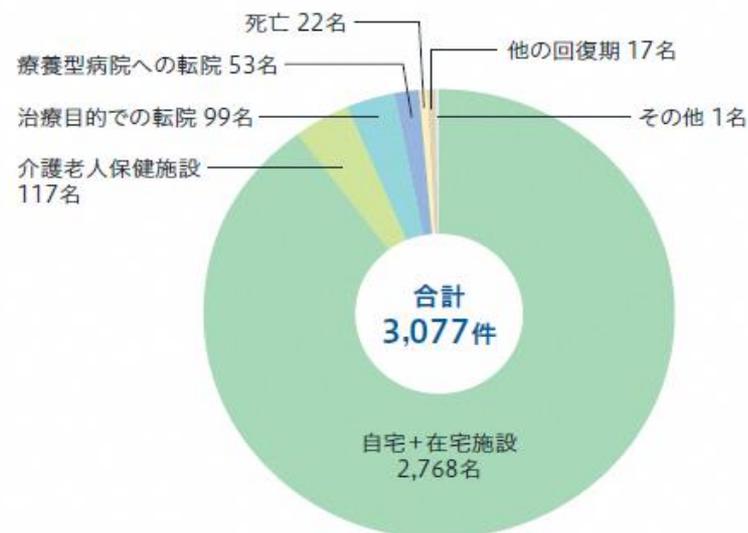
総合リハビリテーション

1981年（S56）の開院時より、リハビリテーション部門を有し、多職種チームによる「身体機能の回復」「日常生活活動の向上」「復学・復職」「スポーツ復帰」など、年間3,000名を超える患者に対応しており、9名のリハビリテーション専門医による専門性の高いリハビリテーションサービスの提供を目指している。

■ 入院リハビリテーション対象疾患内訳
(2022年度)



■ 退院先



■ 疾患別 患者内訳

	患者数	平均年齢	平均在院日数	在宅復帰率
運動器リハビリテーション	2,286人	66.4歳	33.5日	93.3%
脳血管疾患等リハビリテーション	429人	71.9歳	65.3日	81.3%
心大血管リハビリテーション	140人	82.3歳	21.7日	84.2%
廃用症候群リハビリテーション	222人	82.0歳	33.1日	75.2%

1 自施設の現状 自施設の特徴

回復期リハビリテーション

回復期リハビリテーションにおいては、私たちが信条とする「科学に基づくリハ」を実践するための部門「Neuro-activation Rehabilitation Center (NARC : ナーク)を設置。「神経活性化」の考えを軸として、先進機器や新しい概念を当院リハに取り入れるための情報収集、導入後の振り返り評価や学会等を通じた報告などの活動を実践している。

回復期リハビリテーション病棟 実績

対象期間：2023.4～2023.6

厚生労働省より「回復期リハビリテーション病棟入院料」を算定している病院に義務付けられている実績報告です。



- 期間中、回復期リハビリテーション病棟から退棟した患者数

223 名



- 実績指数【2023.1～2023.6】

48.77

実績指数とは、「入院から退院までの間にどれだけADLが改善したか」、「在院日数は何日なのか」という点を規定の式に入れることで算出されます。

回復期リハビリテーション病棟入院料を算定するには、40以上が求められます。

実績指数は、入院している期間が短く、また、ADLの改善度が大きいほど、高くなります。

ADL＝日常生活動作 (Activities of Daily Living)

日常生活を送るために最低限必要な動作で、「起居動作・移乗・移動・食事・更衣・排泄・入浴・整容」を指します。



Driving Simulator

自動車運転に必要な評価と運転技術のシミュレーション練習が可能



Walk AID

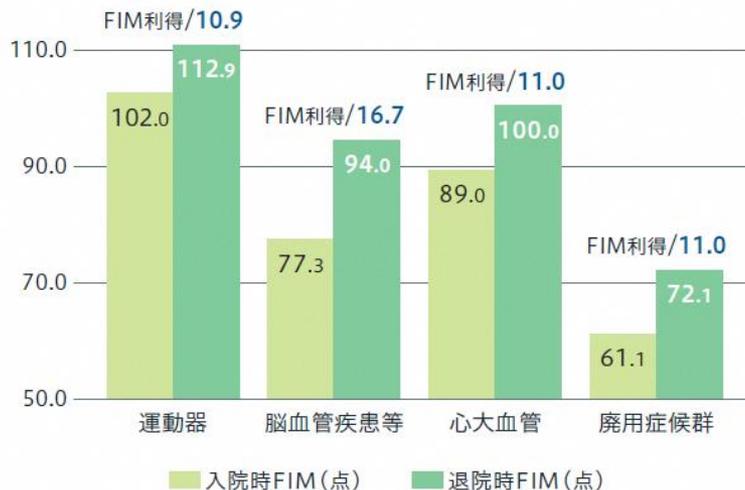
加速度センサーで歩行時の脛骨の角度を感知し前脛骨筋を刺激する機能的電気刺激装置



NxStep

下肢免荷状態での歩行練習が可能なトレッドミル。トレッドミル部を除去して床面で安全な免荷歩行が可能

■ 疾患別リハビリテーション FIM利得



熊本・上益城構想区域の5疾病に係る拠点病院 「急性心筋梗塞急性期拠点病院」

- 平成 9年5月 循環器センターを開設
- 平成12年4月 熊本加齢医学研究所を開設、高齢者における循環器診療の研究を継続し『Circulation Journal Award 2017 First Place』を受賞
- 平成28年 総合血管センターを発足。血管外科、形成外科との連携診療を開始
- 令和3年 『熊本市循環器疾患悪化防止対策モデル事業』を受託
(※熊本健康・体力づくりセンター)

※現在も心臓リハビリテーションを積極的に行い、令和4年度は年間延べ
1,067名(H30年度対比+196名)に施行

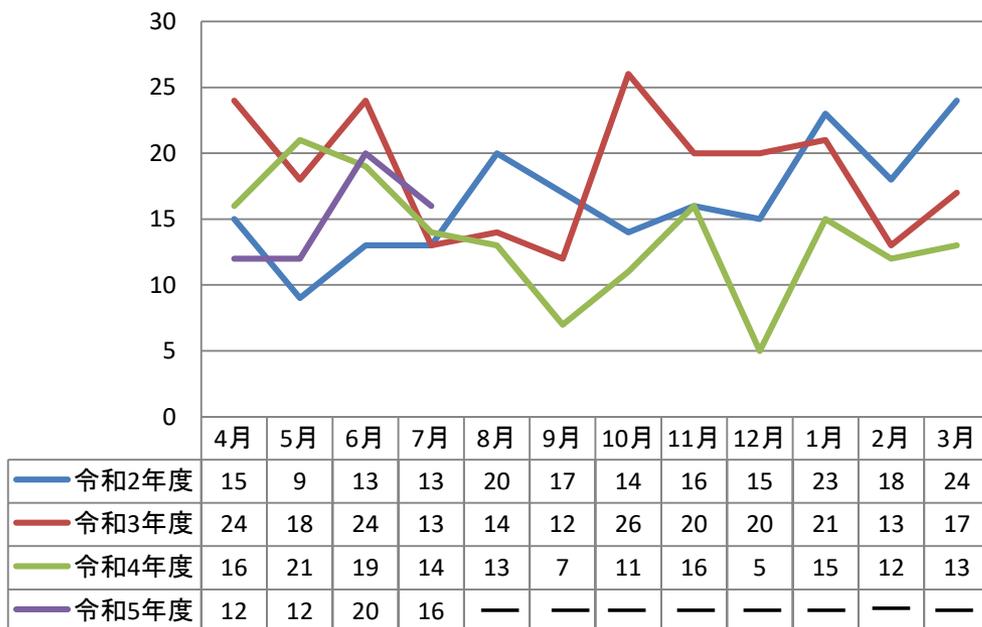
治療・検査分類名	H30年度	R1(H31)年度	R2年度	R3年度	R4年度
心臓カテーテル検査	134	128	101	62	60
心臓外来リハビリテーション(延人数)	871	1,070	760	753	1067
心エコー	1,908	1,624	2,041	4,053	4,111

高度急性期病院と地域クリニックの中間的な立ち位置という利点を活かし、医療連携のつなぎ役として地域に喜ばれる医療を提供していく

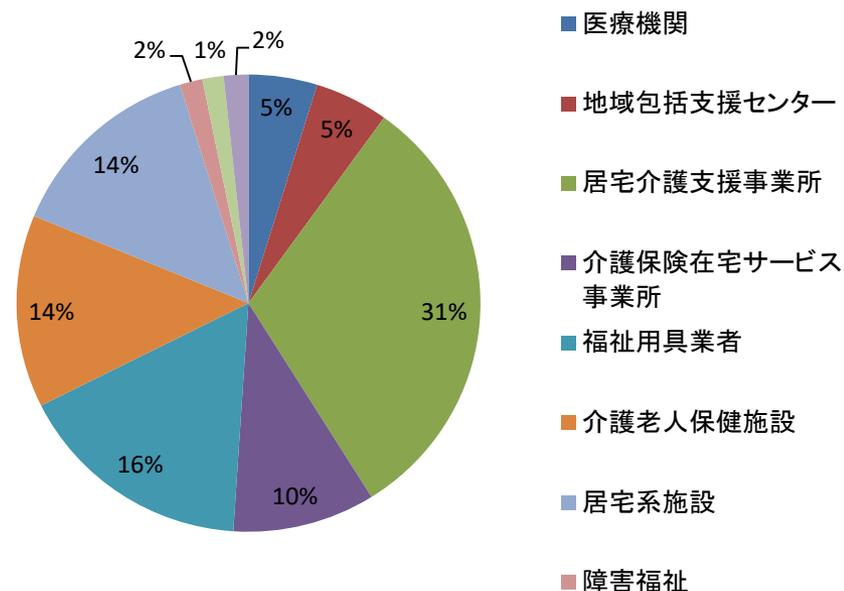
1 現状と課題 他施設との連携



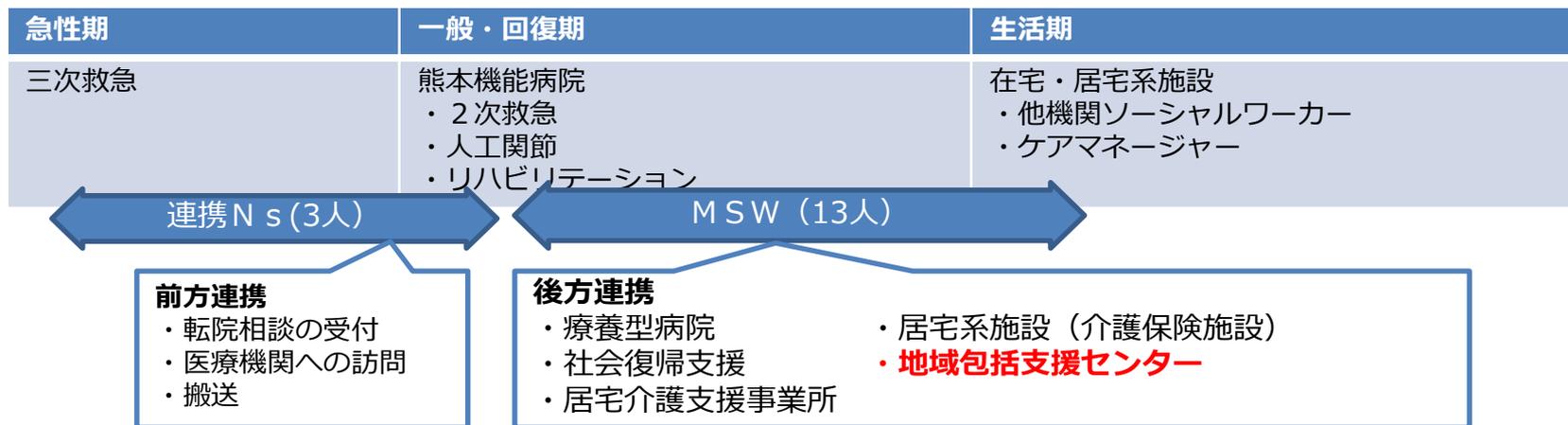
回復期リハビリテーション病棟医師による
高度急性期患者訪問(件数)



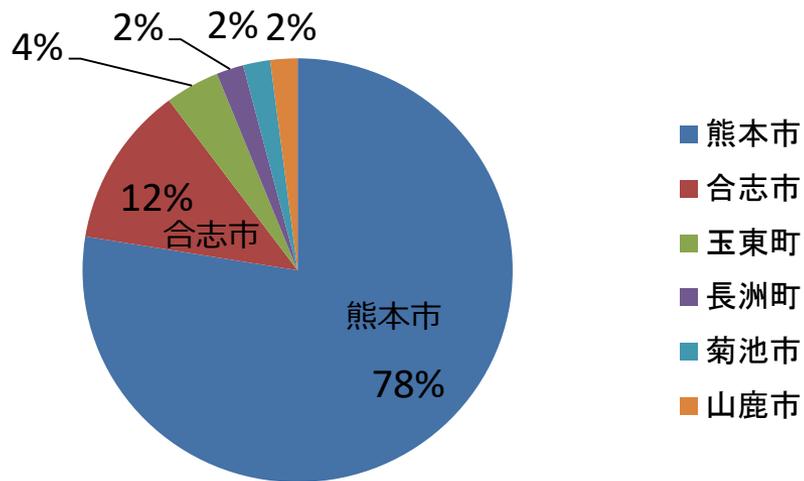
連携先機関種別割合



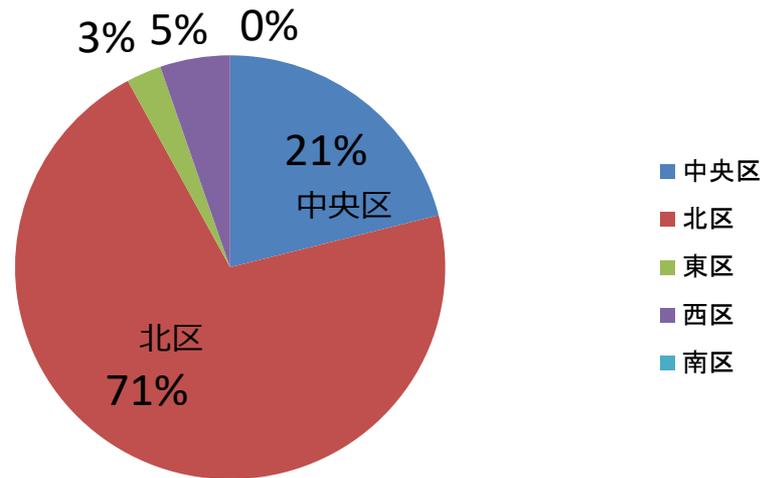
1 現状と課題 他施設との連携



地域包括支援センター連携先割合



ささえりあ(熊本市)連携先



1 現状と課題 当法人の地域包括ケア

高度急性期
急性期

慢性期病床

訪問診療

訪問看護

訪問リハ

通所リハ

クリニック



KUMAMOTO
KINOH
HOSPITAL

急性期
救急センター

回復リハ病棟
地域包括ケア病棟

在宅

介護老人保健施設
清雅苑

デイサービス機能デイトレ
熊本健康体カづくりセンター

ショートステイ



2 今後の方針

▶ 地域において今後担うべき役割

■ 地域包括ケアへの取り組み

- ・ 高齢者に特に必要とされる地域医療の提供（救急、リハビリテーション、介護、地域包括ケア病棟）
- ・ 高齢者の低栄養や口腔機能、運動機能、認知機能の低下等対応のさらなる充実

■ 救急医療体制の充実

- ・ 地域に必要とされる救急体制の充実（医師、診療科、スタッフ）
- ・ 適切な医療を提供するために、ICTを活用した地域のクリニック、施設との連携
- ・ 在宅患者の急変時、かかりつけ病院や診療所と連携の上、救急医療体制の充実

■ 高度医療の提供

- ・ 人工関節置換術（TKA、THA）、切断四肢再接着術（マイクロサージャリー）、形成外科（口唇口蓋裂、多指(趾)少指(趾)症）等の医療提供体制の維持、拡大
- ・ 高度な医療提供のために看護師、薬剤師、リハビリスタッフ等の人材教育・研修・育成を行い、質の高い医療と看護、環境の提供

■ リハビリテーション

- ・ 地域に密着しつつ、より高度なリハビリテーション提供のために、ロボットリハ、急性期集中リハや目的志向型リハを充実させ地域包括ケアに貢献

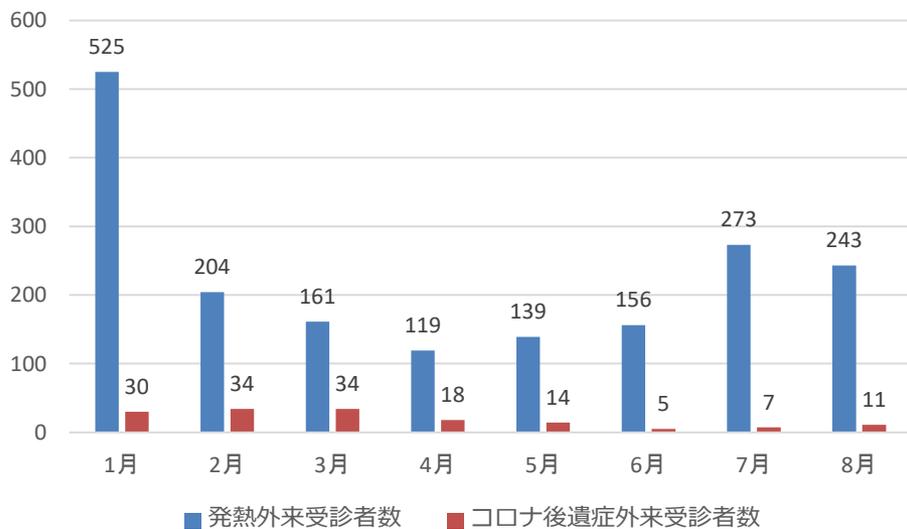
2 今後の方針 【新興感染症への対応】

■ 新型コロナウイルス感染症及び今後の新興感染症対策

これまでの主な取り組み：

- ・ 2020年5月 新型コロナウイルス感染者受入病棟開設
- ・ 2020年11月 発熱外来開設
- ・ 2021年4月 市民向け新型コロナウイルスワクチン接種開始
- ・ 2021年12月 コロナ後遺症外来開設

令和5年 発熱外来・コロナ後遺症外来受診者数



➤ 今後の新興感染症対応

- ◆ 重点医療機関（2023年9月まで）として、新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを積極的に行っており、**今後も**発熱外来等の運用により対応可能な範囲で新興感染症対応を実施。

3 具体的な計画

(1)今後提供する医療機能に関する事項

▶ ① 4 機能ごとの病床のあり方 その1

単位：床

病床機能	2018年 (平成30年)	2023年 (令和5年)	2025年 (令和7年)
高度急性期			
急性期	176	171	171
回復期(障害者 施設等一般含)	219	224	224
慢性期			
その他			
合 計	395	395	395

3 具体的な計画

(1)今後提供する医療機能に関する事項

➤ ① 4機能ごとの病床のあり方 その2-1

急性期：

24時間体制で、救急医療からリハビリテーション医療を通して在宅医療までの一貫した医療を実施する。整形外科、形成外科、循環器内科の専門性、ケアサイクルをさらに充実させる。

回復期：

リハビリ、介護の先駆的取組を行う。また、地域住民、他施設から選ばれるリハビリテーションを探求し、訪問リハビリテーションも積極的に取り組み、「地域包括ケアシステム」の構築に貢献する。

障害者施設等一般：

重度の障害をお持ちの方や神経難病の方を対象にADL（日常生活動作）の維持とQOL（生活の質）の向上を目標とし、多職種の医療スタッフと、退院後、在宅での生活の不安を解消できるようサービスを提供していく。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

➤ ① 4 機能ごとの病床のあり方 その2-2

開設当初から「救急からリハビリまで」を目指し、現在「救急から生活自立支援まで」を理念としている。また、「医療の谷間の解消」の方針のもと、へき地医療を続けている。平成5年以来、中国から医師の研修受け入れを行い、国際的な医療交流も続けている。

昭和56年	熊本機能病院 開設
昭和57年	救急告示病院 認定
昭和61年	リハビリテーションセンター・臨床神経生理検査センター 開設
昭和63年	介護老人保健施設 清雅苑 開設 (熊本県第1号の老人保健施設)
平成元年	熊本体力研究所 開設
平成3年	熊本口唇口蓋裂センター (現：国際口唇口蓋裂センター) 開設
平成9年	疾病予防施設 熊本健康・体力づくりセンター開設
平成12年	熊本加齢医学研究所・神経難病センター 開設 有明海リハビリテーションクリニック及び有明海通所リハビリテーションセンター開設
平成13年	熊本圏域地域リハビリテーション広域支援センター 熊本県より受託
平成16年	創傷ケアセンター 開設
平成20年	地域医療連携画像診断センター 開設
平成23年	天草市立御所浦診療所 医師派遣開始 ~ 平成24年8月
平成26年	天草市立牛深市民病院 医師派遣開始 ~ 平成27年3月
平成29年	産山村診療所 医師派遣開始 ~ 現在
平成30年	開放型病床 開設
平成31年	日本救急医学会 救急専門医指定施設 認定

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

➤ ② 診療科の見直し

	現時点 (2023年7月)	2025年	理由・方策
維持	整形外科 リウマチ科 形成外科 小児形成外科		
新設	脳神経内科 リハビリテーション科 脳神経外科 循環器内科 血管外科 内科	→ 変わりなし	
廃止	放射線科 救急科 外科 皮膚科		
変更・統合	麻酔科 耳鼻咽喉科 消化器外科 小児科 総合診療科		

3 具体的な計画 (2)数値目標

	現時点(2023年7月)	2025年
①病床稼働率	84.1%	86.0%
②紹介率	28.0%	50.0%
③逆紹介率	22.3%	40.0%

紹介率・逆紹介率の計算方法

紹介率・逆紹介率の用語の定義 (地域医療支援病院の要件に基づく)

■ 紹介率 = $\frac{\text{紹介患者数}}{\text{初診患者数}}$

1. 初診患者数
初診料算定患者数 - (救急搬送患者数 + 休日又は夜間に受診した患者数)

2. 紹介患者(初診患者に限る)
開設者と直接関係ない他の病院又は診療所から紹介状により紹介された者の数

■ 逆紹介率 = $\frac{\text{逆紹介患者数}}{\text{初診患者数}}$

3. 逆紹介患者数
 - ・他の病院又は診療所に紹介した者の数
 - ・診療に基づき他の機関での診療の必要性等を求め、患者に説明し、その同意を得て当該機関に対して、診療状況を示す文章を添えて紹介を行った患者 (開設者と直接関係のある他の機関に紹介した患者を除く)

3 具体的な計画 (3)数値目標の達成に向けた取組みと課題

- 地域住民、他施設から選ばれる医療を提供できる体制作り
 - ・ 専門性の高い医療の提供、手術を始め安全・安心な医療の提供
 - ・ 専門医療と地域医療の両立
 - ・ リハビリテーション、認知症対応病棟など、専門性の向上と確立
 - ・ 二次救急から回復期に対応した病棟・病床(適正数)の確保
- 地域の医療施設、介護施設等との連携強化
 - ・ 地域医療機関との連携強化（定期的な交流会、勉強会の開催、自院紹介）
 - ・ ICT、くまもとメディカルネットワーク等を用いた患者情報の共有
- ◆ 課題
 - 人材確保、外国人人材、DX
 - 医師の働き方改革（A水準での運用）を踏まえた医療従事者の確保
 - ・ 令和5年3月、労働基準監督署の宿日直許可を取得し、大学病院等から派遣を受けやすい環境を整備
 - ・ タスクシフト・シェアによる多職種連携強化と適切な役割分担・統合
 - ・ 職種に合わせた勤務体制・シフトの多様化対応、環境整備